

修辞構造とは？

- テキスト内の文や節、単語などの配置を整えることでテキストに構造を持たせる修辞的な技法
 - 英語ではLiterary Structureなので、直訳して文学構造などとも呼ぶ
- 修辞構造の利用は、様々な文化のテキストで古代より広くみられる
 - 特に聖書では修辞構造の利用が顕著であり様々な研究が進められている
- 聖書で頻繁に用いられる古典的な修辞構造には並行法、交差配列法、集中構造がある

並行法 (Parallelismus) Lk11:31-32

A 11:31 南の国の女王は、裁きの時、今の時代の者たちと一緒に立ち上がり彼らを罪に定めるであろう。

B この女王はソロモンの知恵を聞くために、地の果てから来たからである。

C ここに、ソロモンにまさるものがある。

A 11:32 また、ニネベの人々は裁きの時、今の時代の者たちと一緒に立ち上がり、彼らを罪に定めるであろう。

B ニネベの人々は、ヨナの説教を聞いて悔い改めたからである。

C ここに、ヨナにまさるものがある。

多くの文化で一般的にみられる同型構造の反復
聖書等の古典文献でも頻繁に用いられる

修辞構造で物語の区切りが明示化される

交差配列法 (Chiasmus or Chiasm)

ὅτι τὸν ἥλιον αὐτοῦ ἀνατέλλει ἐπὶ **A** **πονηροὺς** καὶ **B** **ἀγαθοὺς**
καὶ βρέχει ἐπὶ **B'** **δικαίους** καὶ **A'** **ἀδίκους.**

父は太陽を昇らせる、**A** **悪人の上**にも、**B** **善人(の上)**にも、 **Mt5:45**
また雨を降らせる、**B'** **正しい者の上**にも、**A'** **正しくない者(の上)**にも。

最も基本的な交差配列法では、テキスト間の対応を結びとギリシア文字のX(カイ)の字になるためChiasm

交差配列法 (Chiasm)

1・1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。

Jnl:1-14

1・2 この言は、初めに神と共にあった。

1・3 万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。

1・4 言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。

1・5 光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。

1・6 神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネである。

1・7 彼は証しをするために来た。光について証しをするため、また、すべての人が彼によって信じるようになるためである。

1・8 彼は光ではなく、光について証しをするために来た。

1・9 その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。

1・10 言は世にあった。世は言によって成ったが、世は言を認めなかった。

1・11 言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。

1・12 しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。

1・13 この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである。

1・14 言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。

わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。

交差配列法の対応箇所は二か所に限らず、より長い構造も多数存在する

交差配列法 (Chiasm) からの解釈

1・4 言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。

John 1:4 ἐν αὐτῷ ζωὴ ἦν, καὶ ἡ ζωὴ ἦν τὸ φῶς τῶν ἀνθρώπων

1・12 しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。

John 1:12 ὅσοι δὲ ἔλαβον αὐτόν, ἔδωκεν αὐτοῖς ἐξουσίαν τέκνα θεοῦ γενέσθαι, τοῖς πιστεύουσιν εἰς τὸ ὄνομα αὐτοῦ,

命によって照らされる≡神の子となる資格を得る

明示的に同じ単語はないが、他の箇所間の関係から対応関係が推定される箇所間の関係性の探索により、単語のより深い意味の解釈に踏み込むことが可能

集中構造 (Concentric structure)

天におられるわたしたちの父よ、御名が崇められますように。

御国が来ますように。

御心が行われますように、天におけるように地の上にも。

わたしたちに必要な糧を今日与えてください。

わたしたちの負い目を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように。

わたしたちを誘惑に遭わせず、

悪い者から救ってください。

マタイ6:9-13

集中構造は交差配列法と似ており学者によっては区別しないが、一つの中心を持つ構造を集中構造、中心を持たない構造を交差配列法と呼び分ける場合がある

集中構造 (Concentric structure)

天におられるわたしたちの父よ、御名が崇められますように。

御国が来ますように。

御心が行われますように、天におけるように地の上にも。

わたしたちに必要な糧を今日与えてください。

わたしたちの負い目を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように。

わたしたちを誘惑に遭わせず、

悪い者から救ってください。

マタイ6:9-13

神の御心 = 人を赦すこと

神の国の到来 = 人が正しい秩序の中で生きること

御名があがめられる = 人が悪ではなく神の方を向くこと



必要な糧 = 物質的恵ではなく、その日に必要な神の言葉・教え

集中構造ではテキスト全体が中心的テーマを焦点として絞り込まれていくような構造となる